資料６

令和８年度大学生による男女共同参画ワークショップ企画案

企画概要

- 目的:

  本事業は、若年層（大学生・大学院生等）を対象としたワークショップを実施し、男性視点における男女共同参画への理解阻害要因や意識の現状、多様な課題感を把握することを目的とする。

  本ワークショップを通じて得られた意見・提案は、今後の京都市における男女共同参画推進施策の企画・実施に活用するとともに、次回の市民意識調査の設計および次期京都市男女共同参画計画の策定に向けた基礎資料として反映させるものとする。

- テーマ:

  見えにくく意識しにくい「男性の優位性と生きづらさ」の構造解明

- 日時: 11 月頃の開催を予定
- 対象: 大学生・大学院生 20 名前後（審議会学識にゲストアドバイザーとして同席を依頼）
- 形式: 事前課題＋グループディスカッション（120 分）

  1 グループ 4～5 名×4～5 班　or　1 グループ 9～11 名×2 班

事前課題

【提出方法】

開催 10 日前までに Google フォーム等で回収し、まとめた資料を全体に事前共有する。

○　「当たり前」のチェックリスト

日常の場面の中で、「夜道を歩くことに恐怖を感じない。」「就活の場面でライフイベントの予定について尋ねられることがない。」「『大黒柱』として稼ぎ続けることを期待される」「何気ない親の言葉にモヤモヤする。」など、男女による意識の差を明らかにするためのチェックシート。

○　抵抗感・違和感の言語化

電車の「女性専用車両」、企業や大学における「女性枠」、「クオータ制」等の男女共同参画を推進するための施策について、「女性を優遇しすぎではないか？」として、なかなか理解が進まない現状もあるところです。この原因についてあなたはどのように考えますか？（200 字程度）

当日のタイムテーブル

時間	内容	狙い・ポイント
18:00 - 18:15（15 分）	オープニング & アイスブレイク	趣旨説明、学識からのひと言、自己紹介
18:15 - 18:45（30 分）	トークテーマ①：	事前課題１を共有し、社会における男性の「優位性」の正体を可視化する
18:45 - 19:15（30 分）	トークテーマ②：	事前課題２を基軸に、男女共同参画に対する理解を阻む構造/無関心になってしまう理由を考える
19:15 - 19:40（25 分）	トークテーマ③：	無関心層へ届くアプローチや次期計画への提案を導き出す
19:40 - 19:55（15 分）	全体共有 & 学識フィードバック	各班の議論ポイント発表と学識による講評・まとめ
19:55 - 20:00（5 分）	クロージング	アンケート回答・閉会

３つのトークテーマ詳細

【テーマ①】社会における男性の「優位性」と「生きづらさ」は何か？

目的: 男性には「構造的に享受している優位性」があると同時に、男性が感じている生きづらさもあることを客観的に認識するとともに、男女間の意識の差に気づく。

学生への問いかけ:

○ チェックリストを見て、「普段、女性が気を遣ったり警戒したりしていること」は何か？

○ 逆に男性が感じているプレッシャーや生きづらさについて、これまで無関心だったものはあったか？

【テーマ②】男性において男女共同参画への理解を阻む要因とは何か？

目的: 男女共同参画を促進するに当たって、男性側の理解が進まない層や無関心層の心理を掘り下げる。

学生への問いかけ:

○ 「男性に優位性がある」と言われるなか、なぜ男性は「自分も苦しいのに」「男性が非難されている」と感じてしまうのか？

○ 優位性と生きづらさがセットになっている構造の中で、男性が「男女共同参画」にメリットを感じにくい/関心を持ちにくい原因はどこにあるか？

【テーマ③】 「優位性」と「生きづらさ」を超えて参画を促す施策とは？

目的: 市民意識調査や次期計画に生かすための具体的な提案・アイデアに落とし込む。

学生への問いかけ:

○ 今後の意識調査で「社会における男性の優位性/生きづらさの構造」を正しく把握するために、どんな設問や工夫が必要か？

○ 男性を「構造の当事者」として巻き込むには、行政（京都市）はどんな伝え方や事業を行うべきか？